

「さらば、哀しみの青春」～夜回り先生からのメッセージ～

12月21日(月)10時よりメルパルクホールで、夜回り先生として有名な水谷修先生を講師にお迎えし、生徒と保護者が共に学ぶという目的で、PTA主催の人権講演会を実施しました。当日は、本校生徒・教職員、保護者約960名が出席し、盛大な講演会となりました。

水谷先生は、社会科教員として横浜市の夜間定時制高校に赴任され、生徒指導を担当、以後18年間にわたり中・高校生の非行、薬物問題、不登校やこころの病、自殺などの問題解決に尽力され、全国の中高生と向き合って来られました。



現実を見ると、日本の7～8割の高校生が何らかの理由でいつも叱られている。その結果、子どもが常にイライラして「夜の世界」に引き込まれている。社会への攻撃性、イライラ、哀しみ。「昼の世界」に「夜の世界」が入ってきている。水谷先生は続けます。『子どもたちの周りで暖かい言葉をかければ、誰が非行やいじめをしますか。子どもに対して、お年寄りに優しくしなさいと言うのなら、親が手本を見せればいい。「生き方は見せるもの」です』と。

水谷先生は、シンナー中毒になったひとりの少年の話をされました。

そして全国、大阪の現実。『薬物がもの凄い勢いで拡がってきている。残念ながら大阪の子どもたち、君たちの8割が、今まで、これからの人生で、実際に薬物について見聞きする。残念ながら君たちの5割、ふたりにひとりが誘われる。残念ながら君たちのうち8%、100人に8人は使うだろう。これが大阪の薬物の実態である。』

君たちに言いたい。薬物との最初の出会いに「No!」と言える勇気を持って欲しい。「夜の世界」の人間が最も恐れるのは真面目に考え、行動する者である』。

水谷先生は最後に、先祖から綿々と受け継がれ、託されてきた命の大切さを切々と訴えかけられました。

ご自身の命をもかけて、多くの子どもたちを救ってこられた水谷先生の言葉は、生徒・保護者・教職員ひとり一人の心に深く刻み込まれました。



夜の11時から明け方まで、繁華街をパトロールされることから「夜回り先生」と呼ばれ、全国の若者から慕われておられます。

講演の内容を一部紹介します。

水谷先生は会場の皆に問いかけます。

『皆さん方の家庭で、「暖かい、優しい、美しい、思いやりのある言葉」と「酷い、きつい、追い詰めるような厳しい言葉」どちらが多かったですか?』 家庭は最も心が安らぐ憩いの場でなくてはならない。そこにイライラが入ってくることが、子どもたちを追い込んでいる。

